

地域がん診療連携拠点病院＜川崎市立井田病院からのお知らせ＞

新型コロナウイルス
● 関連情報特集 ●
(第69号)

井田山 (いだやま)

基本理念「井田病院は、自治体病院として、市民から信頼され、
市民が安心してかかれる病院づくりを目指します。」


発行責任者 北村 修

編集 川崎市立井田病院 ホームページ・広報委員会

川崎市中原区井田2-27-1

電話 044-766-2188 (代)

当院ホームページをご覧ください

市立井田病院 

● 井田病院 中島洋介病院長 挨拶 ●

病院長の中島です。川崎市立井田病院は、公立病院としての責務を果たすべく、2月初旬から新型コロナウイルス感染症に対応してまいりました。当初は神奈川県からの要請を受け、ダイヤモンドプリンセス号で発生した患者の受け入れ、県のコロナ対策の一環としての結核患者の受け入れを行いました。そしてコロナ感染症の拡大に伴い、結核病棟のコロナ専用病棟化を推し進め、神奈川モデルにおける重点医療機関として、これまで多くの患者さんを受け入れて現在に至ります。

コロナ対応については、他の患者さんのためにも職員のためにも「院内感染を決して起こさない」ことをミッションとしてまいりましたが、お陰様で現在まで一度もコロナ院内感染は発生しておりません。これは当院が川崎市唯一の結核病棟を運営してきた経験と、職員の努力の賜物と誇りに思っております。

さて、幸いなことにコロナ感染症も減少傾向となり、国の緊急事態宣言が解除されました。そこで今後はコロナの第二波発生に注意しつつ、外来、入院、手術機能を復活させて通常診療に戻すことが当院の公立病院、地域の中核病院の使命と考えております。これからは当院の運営の要であるがん診療、緩和ケア、在宅療養支援、高齢者医療、救急医療などの機能を徐々に復旧させて参ります。皆様のご協力をよろしくお願い致します。

中島洋介

当院のコロナ関連情報はホームページに掲載しております。また、川崎市の情報動画(かわさきコロナ情報)で取り上げられました(5月26日)。ぜひご覧ください。

川崎市 YouTube チャンネル内

井田病院 コロナ YouTube 

● 通常診療体制の再開に向けて ●

井田病院では、緊急事態宣言の解除に伴い、通常診療体制を再開しております。これまで、そしてこれからも院内感染ゼロを目指し、職員一同、慎重に対応させていただきます。どうぞ安心してご受診ください。

● ご来院される患者さん、ご家族の皆様へのごお願い ●

○健康チェックの実施

ご来院の際、正面入り口にて体温測定・問診を受けてから病院内にお入りください。

○マスクのご着用

ご来院の際、必ずマスクをご用意・ご着用ください。

○手指の消毒の徹底

受診時及び帰宅時等、こまめに手指を消毒してください。

○面会制限

原則、面会禁止とさせていただきます（緊急の場合や当院からの要請があった場合を除く。）。

新型コロナはインフルエンザや
風邪と同様に飛沫や接触で
感染します。

● コロナ対策のこれまで・これから ●



当院は神奈川モデルの重点医療機関としてコロナ感染症の患者さんを受け入れています。

経緯としては、2月に帰国者・接触者外来を開設し、ダイヤモンドプリンセス号の患者さんを6名受け入れました。その後4月には市中感染の拡大に伴い、結核病棟40床を新型コロナウイルス感染症専用としました。結核患者さんには事情を説明したうえで県内他病院へ転院していただき、院内では看護師の配置変更などの対応をしています。また、面会制限や玄関での検温・問診、コロナ外来専用の動線確保などの院内感染対策のもと、400名を超えるコロナ疑い患者さんの外来診療を行いました。

これからは、元の診療体制に戻す一方で、第二波、第三波に備え、感染対策も継続してまいります。当院ではこれまで院内感染を起こしておりません。今後も全職員一丸となって安全確保に努めますので、患者さんには安心して当院にかかっただけますと幸いです。

【感染症内科部長 中島由紀子】

● 正面玄関で検温・問診をしています ●



当院では緊急事態宣言解除後も、正面玄関の開錠時間変更を継続し、7時45分から17時00分までとさせていただきます。

7時45分前には、救急の患者さんを除いて、院内に入ることができませんのでご了承ください。

院内に入る際には、写真のように非接触型の体温計での検温と呼吸器症状や濃厚接触歴などについての問診をさせていただきます。

順番にご案内しますので、前の方との間隔をあけてお待ちください。

また、来院の際にはマスク着用にご協力くださいますようお願いいたします。

【事務局】



● 井田病院のコロナ外来 ●

コロナ外来は、他院からの紹介患者さんや直接お電話いただいて疑いのある患者さんの予約受診をお願いしていますが、玄関での検温・問診で発熱や呼吸器症状があった患者さんも院外のテントへ案内することで一般患者さんと動線を分離しています。

テント内では、PHSを設置することで看護師と連絡が取れるようになっています。検温と血圧を測定した後、陰圧個室（室内の気圧が低く、空気が漏れ出ない部屋）でコロナ外来担当医師が診察を行います。診察終了後には、コロナ外来エリアを消毒します。

このように通常の診察とは区域を分けて対応しておりますので、安心してご受診ください。

【感染対策室】



診察室



● 結核病棟をコロナ専用 ●



当病棟は、元々結核患者さんに対応した陰圧病室のため、新型コロナウイルス感染症にも対応できる環境です。患者さんは、必要な検査等を室内で受けることができます。

患者さんに対応する主な職員として、医師・看護師・放射線技師・検査技師と限定された清掃員のみが病室に入ります。その際安全のために N95 という特殊なマスクやキャップ、ゴーグル、ガウン、手袋などの防護服を着用し安全確保に努めています。様々な職種が関わり、患者さんの入院生活を支えています。

【看護部】

● 防護具（ガウン）を院内で製作 ●

新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)は唾液・痰・便などを介して目鼻口などの粘膜から感染を起こすことから、防御にはキャップ(頭髪保護)・ゴーグル/フェイスシールド(目の保護)・高機能マスク(口気道の保護)・ガウン(全身を覆う不織布やナイロンのガウン)・手袋を使用し、ウイルス付着と体内侵入を防止します。しかし防護具によるウイルス散布を避けるために一回の使用での破棄が原則です。従って大量の防護具が必要ですが、今回のパンデミックでは急速な感染者増大のため医療機関では深刻な防護具不足に陥りました。

井田病院でも川崎市・神奈川県・政府と連携し援助を受けつつ対処しましたが、防護具が枯渇しかけた時期がありました。早急なガウン調達が不可能となったため、院内の材料を使ってガウンを製作することとし、内視鏡センター看護スタッフがデザインを担当し、院内すべての業種の職員が参加してのガウン作成が行われ約 600 着のガウンが作成され必要部門に配布され感染防御に使用されました。

また同時に近隣の多くの個人の皆様・企業の皆様・川崎市医師会より様々な器材をご寄付いただき、危機的状況を乗り切ることができました。この結果、現在までのところ院内感染を出すことなく市立病院としての責務を達成することができました。ご協力いただきましたすべての方に感謝申し上げます。

【内視鏡センター所長 大森泰】



川崎市立3病院は、陽性患者を受け入れている他の民間病院とともに
新型コロナウイルス感染症に立ち向かいます。